

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3271100582		
法人名	社会福祉法人 早雲会		
事業所名	グループホーム あしたか		
所在地	島根県八束郡東出雲町大字出雲郷490 (電話) 0852-52-6181		
評価機関名	しまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】 (20年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算7.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要 (11月12日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	4名	要介護2	0名			
要介護3	5名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	87.6歳	最低	79歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院 高木歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外観、内部とも古民家風の建造や設えになっていて、白熱灯の光が落ち着いた雰囲気を作っているホームである。町内の方が多く家族との交流や絆が大切にされ、利用者は毎日檜風呂で午後4時から8時の入浴を楽しんだり、編み物や生花等の趣味を活かしながらゆったりと自分のペースで生活している。地域との交流や貢献も積極的で、管理者は公民館等の要請に応え認知症や介護の講演活動で活躍している。これからの活躍が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題として、市町村との連携、運営に関する家族の意見、同業者との交流を通じた向上、チームで作る利用者本位の介護計画、日常的な外出支援等があげられているが、管理者や介護計画作成担当者が中心となって改善してきた。引き続きの課題もあるが改善に向け着実に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価票に書き、管理者がまとめた。期間が短く全体での検討が十分でなく、改善課題も管理者等が中心となり改善シートを作成しまとめた。職員は評価の意義について理解している。外部評価結果は運営推進会議で報告検討されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の状況やホームの年間事業報告、消防法改正にともなう設備等が報告され意見交換が積極的に行われている。会議を通じ、火災発生時のサイレンを設置したり、認知症や介護についての講師の要請があり、公民館や町の介護者の会場で講演活動を行う等、町とともにサービス向上にも取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の健康状態や日々の暮らしぶりは来訪時や電話で都度報告され、年4回の便りでも諸行事や職員の異動を伝えている。運営推進会議の場で家族に意見を言ってもらったり、来訪時に要望を聞く等、運営に活かすような働きかけを行い、年一回、地域の方、運営推進会議メンバー、家族が参加する夕涼み会の開催が実現した。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩中に近所の方と挨拶を交わしたり、差し入れを頂いたりすることもあるがホームへの来訪は少ない。ボランティアの協力で書道や生花、お抹茶たて等に取り組み、作品を町の文化祭に出展している。法人で取り組む文化祭やホームの行事へ参加を呼びかける等、地域交流に力を入れている。法人の広報をはじめ町内に全戸配布した。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人と同じ「ここにある心と人を大切に。主役は利用者」の理念があるが第三者に分かりにくい記述である。運営規定には地域密着型サービスについて明記されている。	○	運営規定に盛り込まれていることもあり、日々の実践も踏まえホームとしての独自の理念を分かりやすく表示して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されている。管理者等はスタッフ会議の場や日々の介護場面等を通じ理念にもとづいた実践が出来るよう職員に関わっているが十分とはいえない。	○	「いきいきシート」による職員の目標や行動設定による振り返りを促す取り組みが始まったこともあり、理念の共有や実践への活用を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの協力で生花や書道等に取り組み、作品を地域の文化祭に出展した。町の行事に参加したり法人で取り組む文化祭やホームの行事への参加を地域住民に呼びかけている。貯金の引き出し希望のある利用者、郵便局職員と連携し、工夫しながら支援している。	○	地域の方と利用者や職員が顔馴染みになるためにも自治会への加入を勧めたい。検討されている幼稚園や小学校との交流も是非実現して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価票に書き管理者がまとめた。期間も短く全体での検討は十分ではなく、改善課題も管理者等が中心に実施した。外部評価は運営推進会議や家族に報告している。	○	改善課題は年間計画を立てて、職員全員で取り組むとともに、自己評価についても準備期間を十分に取、各項目に沿って検討を進めて頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やホームの年間事業報告、消防法改正にともなう設備等が報告され意見交換が積極的に行われている。火災発生時に備えサイレンが設置される等、サービス向上や運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公民館活動に講師として出かけたり、町より「認知症の介護」経験を語って欲しいとの声掛けもある等、町とともに協力し合いサービスの質向上に向け取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者は町内の方がほとんどである。日々の暮らしや健康等は、来訪時や電話で報告し、金銭管理は出納帳にサインをしてもらい、コピーと領収書を渡している。年4回たよりを発行し、諸行事や近況・職員の異動等報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表に参加してもらい意見を言ってもらったり、来訪時に意見を聞く等、運営に活かすように努めている。年一回、地域の方、運営推進会議メンバー、家族が参加する夕涼み会の開催が実現した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの開設後1名の異動があったのみである。馴染みの関係が大切にされ、異動は必要最小限としている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人やホームで「記録」「医学の基礎知識」等テーマを定め、年間計画に沿って毎月学習している。資格取得の支援もあり、資格を有している職員の割合が多い。外部研修には認知症の研修に2人参加したが最近は少なくなっている。	○	段階に応じた職員育成に取り組むとともに、一人ひとりの職員が生き生きと働ける「職場づくり」にも力を入れて頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者職員と交流会を行った。他のホーム職員があしたかに研修に来る機会も多く、電話での情報交換も適宜行ってる。前回と違う同業者との相互訪問を計画している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらったり、介護支援専門員である管理者が自宅を訪問し馴染みの関係をつくっている。入居後は家族に電話や来訪して頂く等、早く慣れてもらうよう協力し合っている。併設のデイサービス利用者の入居が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯干しや洗濯たたみ、ゴミ捨て、畑でのジャガイモや野菜づくり、献立を考えてもらう等、利用者の出来ること出来そうなことを引き出しながらか支援している。職員も野菜の切り方等を学んだり、励ましてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式が取り入れられ情報収集している。利用者の日々の表情や言動、家族からの新しい情報は「気付きノート」で共有され、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や要望を聞き、スタッフ会議で検討され、利用者の生活歴や趣味等を盛り込んだ介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き見直しを行っているが六ヶ月に一回となっている。家族から要望が出ることは少ない。変化がある時には随時見直している。	○	毎月の見直しとともに利用者や家族、必要な関係者が参加するカンファレンスにも取り組んで頂きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や薬の受け取りは家族が原則となっているが、緊急時には柔軟に対応している。入院の短期化に向け関係者と話し合ったり、健康管理のため併設のデイサービスや施設職員と連携している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそったかかりつけ医であり定期的に受診している。往診が時々あり、緊急時には協力医院と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。時に歯科の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居される時には併設の特養に申し込みをしてもらい、家族は安心感を持っている。重度化や終末期のあり方を話し合っているが、医師の協力や職員の配置等もあり、関係施設との連携で重度化への対応を考えている。	○	住み慣れたホームも選択肢の一つとして考えて頂きたい。そのため早い段階からかかりつけ医や家族等関係者と話し合っ頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄時の言葉かけや対応等、プライバシーや相手を尊重した支援を行っている。記録も時間や場所に配慮して行う等、個人情報の取り扱いに留意している。「尊厳」についての学習を計画している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室の掃除、新聞を読む、編み物や生花、書道を楽しむ、喫茶店に行く等、利用者のペースや出来そうなことを引き出したり、要望を達成しようと心掛けているが居室で過ごす人もいる。	○	居室ばかりで過ごすことのないよう利用者同士が居間や庭等で楽しく一緒に過ごせるような時間や場面づくりの工夫にも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くのスーパーに買い物に行く、テーブルを拭く、味見や下膳、食器を洗ってもらう等利用者の出来る力を引き出しながら支援している。座る場所を工夫したり足置き場が作られる等配慮されている。職員は同じものを食べている。	○	作られた料理やテレビを話題にする等、食事時間が楽しいものとなるような支援に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、毎日夕刻の午後4時から8時の間に入浴している。ほぼ毎日入浴する人もいるが、入浴嫌いな利用者にはいろいろ工夫し、入浴へと誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や料理、花の水やり、趣味を活かした生花や書道、編み物等の支援をしている。桜餅づくり、漬物づくり等利用者みんなで楽しむ場面も作っている。子供銀行券を使って金銭の満足感を持ってもらっている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のゴミ捨てを利用した散歩やシルバーカーを押して近所の神社を経由した散歩等、いくつかの散歩コースがある。買い物をはじめ町の行事、デイサービスの取り組みに参加する等、外出の機会を作るよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーが付けられ、午前6時から午後8時まで開錠されている。ひとりで歩きたい利用者はそれとなく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難、通報、救出訓練等法人と一緒に年2回実施した。運営推進会議の意見から、外部に通報できるようにサイレンを設置した。地域の協力体制作りはこれからで火災時の避難経路に改善が必要である。法人で備蓄品を確保している。	○	地域の協力体制作りとホーム独自に3日分の備蓄品を確保して頂きたい。また、火災時の避難経路の明確化とともに改善に期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが取れた献立であり果物も多く、食事や水分の摂取量が把握記録されている。水分摂取が習慣化していない利用者には寒天ゼリーで補う等工夫している。体重増加のコントロールにも目が向けられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家風の建物であり、白熱灯の明かりが落ち着いた雰囲気を作っている。玄関には利用者が生けた生け花が飾られ、事務室や居間の椅子には利用者が作った毛糸の座布団が敷かれている。畳コーナーもあり冬季はコタツで暖を取っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台があり、使い慣れた家具や椅子、仏壇、掃除機等が持ち込まれ、貝や毛糸で作った人形が飾られている。他人にあげようと毛糸でウオーマーづくりを楽しんでいる利用者がいた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。